

不妊治療の基礎知識

二人目不妊に悩むご夫婦にも活用してほしい 特定治療支援事業

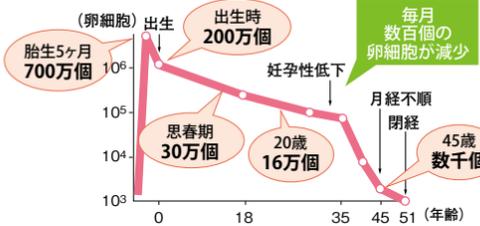
二人目不妊は、一人目の妊娠・出産時より年齢が上がっていることから、体外受精や顕微授精といった不妊治療を検討されている方もいるのではないのでしょうか？ 1月から支援制度が拡充され、より治療を受けやすくなっているため、一日も早いスタートを検討したいところです。

夫婦で話し合い、早めの治療スタートを

一人目は自然妊娠で出産したという方でも、二人目不妊に悩んでいる方がいます。二人目不妊の要因としては、第二子の妊娠・出産年齢が上がったことにより、第二子を希望する夫婦の年齢も上昇したことが挙げられます。母体の加齢は、卵子の減少・老化、子宮内膜症や卵管の癒着などのトラブルが起りやすくなるほか、男性も加齢により造精機能の低下や精子の質の悪化（運動率の低下）が生じるのが原因です。ほかにも第一子の育児や年齢的に仕事が多忙になることで、性交渉の回数が減少し、妊娠の機会が減少するということも起こっています。

用できるようなりました。男性不妊治療にも助成されるので、活用して前向きに治療を進めていきましょう。

加齢に伴う卵細胞数の変化 出典：一般社団法人 日本生殖医学会



卵子の元になる卵細胞は、胎生5ヵ月頃に最も多く、排卵が起り始める思春期頃には30万個まで減少。卵細胞の数は増加することはない、37歳頃を過ぎると急速に減少するので、早めの治療が望まれます。

特定治療支援事業の概要

- 要旨 不妊治療の経済的負担の軽減を図るため、高額な医療費がかかる配偶者間の不妊治療に要する費用一部を助成
- 対象治療法 体外受精及び顕微授精(以下「特定不妊治療」という)
- 対象者 特定不妊治療以外の治療法によっては妊娠の見込みがないか、又は極めて少ないと医師に診断された夫婦(治療期間の初日における妻の年齢が43歳未満である夫婦)
- 給付の内容
 - ①1回30万円
 - ※凍結胚移植(採卵を伴わないもの)及び採卵したが卵が得られない等のため中止したものについては1回10万円
 - 通算回数は、初めて助成を受けた際の治療期間初日における妻の年齢が、40歳未満であるときは通算6回まで、40歳以上43歳未満であるときは通算3回まで助成(1子ごと)
 - ②男性不妊治療を行った場合は30万円
 - ※精子を精巣又は精巣上体から採取するための手術
 - 令和3年1月1日以降に終了した治療を対象(下記表1参照)
- 拡充の適用 事業実施主体において医療機関を指定
- 指定医療機関 都道府県、指定都市、中核市
- 実施主体 1/2(負担割合：国1/2、都道府県・指定都市・中核市1/2)、安心子ども基金を活用

指定医療機関の確認を忘れずに!
医療機関の指定は各実施主体(都道府県、指定都市、中核市)が行っています。この支援制度が利用できるクリニックかどうかを必ず確認しましょう(一覧表は下記QR参照)。

以前の支援制度	所得制限：730万円未満(夫婦合算の所得) 助成額：1回15万円(初回のみ30万円) 助成回数：生涯で通算6回まで(40歳以上43歳未満は3回) 対象年齢：妻の年齢が43歳未満
支援拡充案	所得制限：撤廃 助成額：1回30万円 助成回数：1子ごと6回まで(40歳以上43歳未満は3回) 対象年齢：変更せず(妻の年齢が43歳未満)

厚生労働省 不妊に悩む方への特定治療支援事業 指定医療機関一覧
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000047346.html>



薬剤師・国際中醫師の資格を持つ井上先生夫妻。完全予約制で他の人とかがることがなく、子連れでの来店にも対応。



漢方薬局 柚花香房
吹田市山田西3-57-20 ピアパレス王子101 当/平日9時~19時、水曜9時~13時、土曜9時~17時
日・祝日休 P2台あり 完全予約制
☎06-6816-9677
漢方相談は電話でご予約を <http://wu-xiang-dou.co.jp>
柚花香房 で検索

頑張りすぎない我慢すぎない妊活 40代の方、自然妊娠希望の方も

北摂でも数少ない、粉薬・煎じ薬の調合も行う漢方専門薬局。不妊漢方治療では有名で全国から相談に訪れる。多嚢胞や高FSH、筋腫、習慣性流産なども対応。妊娠した4人に1人が40代という。クリニックから卵の質改善で同店を紹介され、ここに来て自然妊娠された方も。細かく時期や体調を見ながら、「今」必要な漢方で体を整えていく。男性不妊の実績も多数で自然妊娠希望の方にも心強い。



数多くの妊娠実績あり。喜びの声など、詳しくはHPで。

喜びの声

- 卵もあまり育たずFSHも20台と高く採卵中止になることもありました。卵の質を良くしたいと来局。卵の質を上げるために漢方を飲みながら作りをする。半年が経ち、そろそろ採卵と思った矢先に自然妊娠。漢方を飲んで元気になったからかもしれません。(箕面市 39歳)
- 体外受精を含めると流産7回、年齢的に最後のチャンスと相談し、流産の原因は妊娠維持に体が耐えきれない可能性が大いとのこと。妊孕力を高めたり抗体予防の漢方を飲みながら頑張ると二人目を自然妊娠。その後も漢方の支えで無事安定期を迎えることができました。(吹田市 45歳)



この写真の雰囲気通り、やさしく相談しやすい人柄。国際中醫師専門士の資格を持ち、これまでの経験や豊富な知識から的確に体質改善へ導いてくれる。不妊症、アトピー、自律神経失調症など不調を感じたら相談してみよう。

春風漢方薬局
豊中市寺内2-2-22 シャトーエデン109 当/月~金 9時~19時半、土 9時~18時
日曜・祝日休
「予約制につき、電話でご予約を」
☎06-6151-2491
春風漢方薬局 で検索

2人目不妊は焦らずじっくりと漢方で足りていない力を補う

「2人目不妊の主な原因としては、1人目の出産の消耗が回復していない、育児ストレス、加齢などの原因が挙げられます」と西口先生。同院では、2人目不妊の実績も多く、早ければ4ヵ月で妊娠に至るケースもあるという。「1人目ができたということは出産する力は備わっています。ただ、さまざまな状況で五臓の腎や肝がうまく機能できていない、血が巡っていないなど、妊娠力が足りていないケースがあります」。漢方の治療では、カウンセリングで原因を見極め、身体力を補う手助けをし、妊娠へと導くという。まずは相談ベースからスタートなので、話を聞きに行ってみては。

喜びの声

- 3年間不妊で、月経不順、月経時の血塊、月経前の頭痛、胸の張りなどの症状がありました。血と気が不足し巡りが悪いとのこと。それを補う漢方を服用。1ヶ月後には、月経不順以外の症状が無くなり、2ヶ月後には月経周期が安定し、基礎体温表もきれいになり、6ヶ月後に妊娠しました。相談に来て、本当に良かったです。(30代女性)

助成金	2020(R2)年度				2021(R3)年度				2022(R4)年度~
	12	1	2	3	4~6	7~9	10~12	1~3	
現行制度	助成金拡充				助成金拡充				
保険適用	12/14	3月末			夏頃	年明け	準備期間		保険適用(R4.4~)
	工程提示	実態調査最終報告	学会ガイドライン完成(予定)	中協協定協議	準備期間	準備期間	準備期間	準備期間	
	※校正労働科学研究費により助成			保険外併用の仕組みの手続き					

患者さまの声
7月10日に2975gの元気な男の子を無事に産みました。貴院では約1年間お世話になりました。何回も体外受精を行い、なかなか良い結果が出なかった時は心が折れそうになりましたが、先生方やクリニックの皆さまのおかげで治療を続けることができ、かわいい子どもを授かることができました。本当にありがとうございました。2人目の時もよろしくお願いたします。(大阪市・Y.Uさん)

不妊治療専門クリニック 医療法人聖誕会 うめだファティリティークリニック(旧宮崎レディースクリニック)
大阪市北区豊崎3-17-6
診療時間/9時~12時、13時~15時半、17時半~19時半
休診日：日曜、祝日、土曜の夜診
地下鉄中津駅下車 3番出口より徒歩約1分
阪急梅田駅茶屋町下車 徒歩約5分
☎06-6371-0363
<https://umeda-fc.org/>
※当クリニックは、特定不妊治療助成事業の「指定医療機関」です。

うめだファティリティークリニックは最先端の治療が受けられる

「当うめだファティリティークリニックは、どこよりも早く最先端の治療を患者様にお届けできるよう、私たち看護師をはじめ、医師、胚培養士が日々研鑽を重ねています。まずはお気軽にご相談ください。」



- 【PRP療法・ERA検査】
2020年7月に厚生労働省「再生医療等委員会」より、多血小板血漿 (PRP) の施設認定を受けました。
- 【着床前診断 (PGT)】
移植前に受精卵 (胚盤胞) の遺伝子・染色体を検査し、良好胚のみを移植するので、流産率の低下が期待できます。
- 【男性不妊外来】
不妊専門の3名の泌尿器科医が在籍。男性専用フロアや待合室も設置。また無精子症の最新治療である「マイクロセ」も導入。オンライン診療も活用していただけます。

不妊治療の保険適用に向けて患者様が利用しやすい環境に最先端治療で妊娠率向上男女不妊治療の実績多数

2020年12月に国会で可決・成立した生殖補助医療法案で、2022年4月から不妊治療の保険適用がスタートすることが決まりました。これまでは、卵管閉塞における卵管鏡下卵管形成術など、治療の有効性や安全性が確立しているものは保険適用になっていましたが、原因が必ずしも明らかでない場合に行われる体外受精や顕微授精については保険適用の対象外でした。来年4月からはこれら不妊治療も対象になることから、これまで自由診療で使っていたタイムラプス胚培養などの最新機器についても保険適用として認定されること望まれています。

そこで当クリニックでは患者様がより利用しやすい環境づくりをめざしています。来年から2フロアを利用した二診制にすることにより、待ち時間を短縮するほか、オンライン診療も拡充していきます。また男性外来は生殖医療専門の泌尿器科医が対応しています。助成金拡充もスタートしているため、ご夫婦揃って治療を始められたいかがでしょうか。



うめだファティリティークリニック 山下 能教 院長
大阪医科大学医学部卒業(医学博士)。日本産婦人科学会認定医、生殖医療専門医。大阪医科大学産婦人科学講師を経て、うめだファティリティークリニック副院長就任。平成29年4月に院長就任。